

◎日本の非核政策と核共有

「核共有」を日米安保、アジア安保、米中相互抑止の文脈で考察する

1. Sharing の要件を考える

①能力 *capability* の共有＝核弾頭、運搬手段、技術的な訓練、*nuclear certificate* など→高度な政治レベルの関与＝アメリカ大統領の完全なる同意と支持が必要

→「核兵器の役割低減」を唱えるバイデン大統領、核不拡散を重視する政権の下（特に民主党）では考えにくいのでは

②戦略計画 *strategic planning* の共有＝「共通核戦略」が必要、標的情報（高度な軍事機密）の共有が前提、米国の *OPLAN*（核戦争計画）との補完性

→日本に求められる独自の核戦略、その能力と覚悟、説明責任を果たす意思があるのか

③作戦計画 *operational planning* の共有＝地域における具体的な核使用計画の策定・共有、役割・任務の分担、標的情報の分析・共有→主に軍・軍

→日本に核を持ち込むなら優先度の極めて高い軍事目標になる。政治家が国民に覚悟を求めた上で安心安全につながるのか

2. Sharing の目的を考える

①日本の国防と安全保障を向上させるのか

→いずれにせよ大統領が拒否権を堅持。また戦略的抑止への「屋上屋」では

②地域の安定と平和に資するのか

→周辺国の反応を鑑み、地域安保構想の促進要因なのか、阻害要因なのか

→軍備管理・軍縮の枠組み不在のアジアにプラスかマイナスか

③米中の「戦略的安定（*strategic stability*）」に貢献できるか

→日米の核共有が不安定な変数になる恐れはないのか

3. Sharing の *strategic implication*（戦略的含意）と *political ramification*（思わぬ結果）を考える

①地域安保への余波はないのか

→日米韓の「統合抑止（*integrated deterrence*）」の促進要因か負荷要因か

②米中間の「戦略的安定」への影響

→安定枠組み構築にプラスかマイナスか

③戦後日本のアイデンティティ、道徳権威、国家の在り方を変質させる恐れはないのか

→被爆国の「特別な責務」（トマス・シェリング）を人類に果たし続けられるのか。日本のソフトパワー弱体化に繋がらないのか

④国際核秩序への重大な影響

→地域の「核ドミノ」を誘発しないか。NPTの事実上の機能不全を招かないか